

(幕別町) 町民と考えるオリンピックの町ワークショップ (第6回) 検討結果報告会

司会・進行	後藤朋子 (FM-JAGA)
特別ゲスト	山本幸平、桑井亜乃
説明担当者 (自治体)	石田晋一、甲谷英司
日時	2019年10月27日 (日) 午後6時00分から午後7時25分まで
場所	幕別町札内コミュニティプラザ (幕別町札内青葉町311-11)
その他	傍聴者数 (町民) 22名、(町外) 4名、(報道) 2名

趣旨・概要

第6回目は、第1回～第5回で議論してきた内容をまとめて作成した提言書の内容を事務局から報告し、その内容を踏まえ全員 (傍聴者含む) でディスカッションを行った。

ディスカッション

- 司) オリンピアンが2人来ていただいているので、まず、はじめに幕別町で「オリンピックの町」をテーマにワークショップを行っていることに対してどう感じているか教えていただきたい。
- 桑) 他の市町村では、このテーマでワークショップを行っている場所がないから、早くに参加できて嬉しく思っている。
第3回に来たときよりも、内容がまとまっていて芯が通っているので、ワークショップの内容が充実したものになったのだなと感じた。
- 山) このようなワークショップが行われているのを知って驚いた。ここまでオリンピックが輩出されているのに対し、今後どのようにしていくかを本気で協議を行っているのだと感じた。
- 司) 5つの提言の中で、オリンピックを応援していこうというものがあったが、2人がオリンピックに出場していた際に、幕別町の皆が応援しているというのを肌で感じることができるような機会はあったか？
- 山) 地元に戻ってきたときには、新聞社やテレビ取材や、役場に挨拶に伺った際などには応援してくれていたのだと感じたが、1歩外に出てしまうと応援してくれているような声かけは一切ないため、マウンテンバイク競技が町民全体に浸透していないといつも感じる。
- 桑) 町の広報紙で取り上げてもらったり、役場に垂れ幕がかかっているなどで、応援されている実感はあったが、なかなか結果が出なかったため、知られている人には知られているが小中学生などからの認知度が低かった。オリンピックが終わった後に、児童向けにダグラグビーの講師の依頼を受けたが、できれば、オリンピック前に依頼を受けていたら認知度が上がって、もっと応援されたのかなと感じた。
- 司) 少年団、部活動を行っている子どもたちの保護者への負担 (送迎、金銭面等) が大きいという話しについてどう思っているか？

- 山) マウンテンバイクという競技が特別だと思うが、少年団も部活もなかったのも、親と毎週末に道内各地に旅行に行く感覚で大会に出場していて、大会はもちろんだが家族旅行ができる機会も多く、楽しかったのを記憶している。ここまで不自由なくできたのは、家族による金銭面でのサポートが大きかったのだと今になって感じている。
- 司) いつからマウンテンバイクを始めたのか？
- 山) 初レースは小学4年生なので、特段早く始めたわけではない。中学、高校生の時は卓球部に所属しながらマウンテンバイクに乗っていた。それでも、世界で戦える力をつけられたので、いろんなやり方があると思う。
- 桑) 親がいなければ、スポーツができなかったと思っている。陸上のほかにアイスホッケーもやっていて、特に中学生、高校生の時は幕別から御影まで通っていて、車以外の交通手段がなかったので家族に頻繁に送迎してもらっていた。金銭面に関しては、アイスホッケーをやるには道具に結構お金がかかるので、最初のうちはおさがりももらってはじめて。新しい道具が必要になっても親のおかげで不自由なく好きなスポーツをできたので感謝している。
- 司) 提言3つ目でスポーツをするきっかけという話があるが、2人にとってのスポーツを行うきっかけはなにか？
- 山) アウトドアタイプの人間だったので、きっかけは特段なかった。
- 桑) 3才くらいの時、姉が陸上競技をやっていて、よく親と一緒に観に行っていた時に、外周するとお菓子をもらえるイベントが開催されており、それが楽しく陸上競技を始めた。冬になると、スピードスケートやアイスホッケーを行う環境下にあり、スケートよりアイスホッケーに魅力を感じたので、アイスホッケーを始めた。元をたどると、姉の環境下でお菓子を釣られたのがきっかけになったと思う。
- 司) 体育館などの運動施設の利用方法を見直して、幅広い年齢層で利用しやすい環境をつくれたら良いという提案があるが、2人から見て幕別町はスポーツ環境としてはどう思うか？
- 山) 明野ヶ丘公園にマウンテンバイクのコースがあるので、それに手を加えて行きたいという気持ちはある。自転車以外で考えると、夏だと野球やサッカーなどの少年団活動、冬だと授業などでもあるスピードスケート、スキー学校などもあり、生涯スポーツであるパークゴルフの発祥の地でもある。また、住んでいる方はあまり実感が無いと思うが、芝生がとても多いのがすごく良い。東京などと比べるとなかなか考えられない。総合的にみて、かなり恵まれた環境だと思う。
- 桑) 報道の方に、陸上競技場、野球場、スケートリンク、テニスコート、ソフトボール場、サッカー場などこんなに多くの施設が揃っている場所はなかなかないと言われたことがあり、その時に初めて環境に恵まれていたのだと感じた。先程、芝生の話があったが、たしかに天然の良い芝生が多い。ラグビーをやる時は天然でフカフカ

の芝生でやりたいが東京の方だとどうしても人工芝が多いので、幕別町でラグビーをやれたらと考えたこともあった。

- 司) 5つ目の幕別町から多くのオリンピックが輩出されている理由として、食にも大きな要因があるのではないかという話しも出てきているが、改めて幕別町の食についてどう感じているか？
- 山) 帯広農業高校を卒業して新潟に移住していたが、その当時新潟で食べた農作物が美味しくなかったのを記憶している。本当に幕別町、十勝の農作物は美味しいと実感した。
- 桑) 他の地域の野菜を食べると物足りなさを感じるの、その時々で旬な幕別産の野菜を親にいつも送ってもらっている。それくらい、幕別産の野菜は美味しい。
- 司) オリンピアンワークショップで出た5つの提言について、山本さん、桑井さんに伺ったところではあるが、このほかに参加者からオリンピックに聞きたいことなどはあるか？もしくは、感想等を伺いたい。
- 参①) オリンピアン町のワークショップに6回目の参加となり、今まで自分が言ってきた意見がこうして提言書としてまとめられて嬉しく思う。今後どのように実行していけばいいかが形として見えたので、5年後が楽しみである。
- 参②) ワークショップを行ったおかげで、今までよりこれから如何にどうしていったらいいかが明確化されたと思う。必ずしも毎年多くのオリンピックが居るとは限らないから、今の状況を大事にするために年に1回でもいいからオリンピックと町民、民間事業者や行政が絡むイベントを企画するなどしてオリンピックが話題に出るような状況を継続していけばオリンピックの町になると思う。
- 参③) スポーツというのは、幅広い年齢層で誰でも始めることができるもので、良いものだと思うが、私自身スポーツには全く無関心である。ただ、オリンピックが5人いるというのは単純にすごいと思う。このようなすごい町の事業に携われて貴重な経験になった。
- 司) 参加者の方から感想をいただき、ワークショップをきっかけにオリンピックの町というのが浸透していつているのを感じる。
このとおり幕別町ではオリンピックの町とするためにいろいろな事業に取り組んでいるところではあるが、オリンピックの2人がやってみたい事業、イベント等はあるか？
- 山) 自分は、東京オリンピックで現役引退し、日本代表の監督になりたいというのと提案にもあった「アスリートと食」のような取組を今後の活動としたいと考えていた。ずっと夢見ているものは、スポーツの全部を体験、体感できる施設を造ること。子どもから高齢者、全員が体験できるアスリート食や、運動施設はもちろん、スポーツカフェなどを作って観戦もできるような施設ができればと考えている。そのような施設ができれば、スポーツへの関心もかなり高まると思うし、相乗効果としてス

ポーツイベントへの参加率も上がると思う。かなり実現が難しいと思うが、いつかできればと思っている。

- 桑) 幕別といえばパークゴルフだから現役オリンピック5人でパークゴルフ場で何か行ったり、農業が盛んだから畑で何か行うなど、ちょっとしたことでいいから町民がオリンピックを身近に感じることができるようなことがあれば良いと思った。身近に感じることができると、関心も高まり、よりオリンピックの町に近づいていくと思う。今一番やってみたいのは、アスリート給食。例えば、今日は山本さんチョイスの給食、次の日は福島さんチョイスの給食にするなど、現役のオリンピックがどのように育っていったのかという過程も見えるとまた身近に感じてもらえて面白いと考えていた。
- 司) 最後にオリンピック2人から一言いただきたい。
- 山) 東京オリンピックで現役を引退するというので、私にとって東京が最高のパフォーマンスを出せる最後の舞台となる。チケットもなかなか手に入らない状況ではあるが、日本開催なのでテレビでも大会の様子を中継してくれると思うので、マウンテンバイクという競技を実際に観ていただき、幕別町に帰ってきたときにマウンテンバイク競技で何かイベントなどを行えればと思っている。
- 桑) 4年前は、オリンピックに出るので応援してくださいと自信をもって言えたが、今の状況だとオリンピックに出られるか、出られないかの瀬戸際なので、応援していただきたいがなかなか胸を張って言えない状況である。しかし、今回ワークショップに参加させていただき、私自身も気づけていなかった部分を気づかせていただき、私に何かできることはないかと考えていると、やはり東京オリンピックに出場し皆さんに応援していただきたいと思った。今ラグビーもブームになっているので、私もオリンピックに出場し、更にラグビー熱を高めていければと思う。
- 司) 最後に、本日参加された皆さんに配布した資料にアンケートがあるので、記入し事務局まで提出願います。